

日本体育大学 vs 東京学芸大学

9月21日(日)
11:30K.O.
日体大G

後期初勝利を挙げて5位に浮上した日体大と、連敗で10位に後退した東学大との対戦。この順位変動で、日体大は昇格圏が見えてきた一方、東学大は降格圏が迫ってきた。連敗を止めたい東学大と、昇格争いへの参戦に向け波に乗りたいたい日体大の戦いは前期と同様、1点勝負が予想される。

日体大は前節、産能大に2-1と競り勝った。後期初戦の敗戦を受け、「昇格のためには負けられない試合だった。内容より結果にこだわった」(倉又寿雄監督)という試合は、立ち上がりから積極的なプレスでボールを奪い、ファールを誘っていきなり2分にFKで先制。一度は追い付かれたものの、70分にPKで勝ち越した。苦しんでいる得点力は、流れの中から取れておらず復調とは言えないが、まずは勝点3を確保したことが最大の収穫だ。ピンチはそれほど多かった訳ではないが、「球際でかなり取られたし、守備の弱さは出た」(倉又監督)。少ない得点でも勝点を得るため、守備面を改善したい。

対する東学大は前節、日大に1-3で敗れて後期開幕から2連敗。2試合連続で、先制しながら逆転負けを喫しており、今季最低の10位後退と状況は苦しい。しかし、前半だけでシュート10本と、攻撃の組み立て

という面では複数の選手が絡んで復調の兆しも見えた。ただ、相手GKの好守もあったが攻め切れず、逆に後半は攻め疲れの感があり、残り3分で逆転を許してしまった。「カウンターを受けたところもそうだが、ゲーム運びに課題が残る。意思統一ができていない」(檜山康監督)。主導権を握ったところでいかに得点を奪えるか、そして先制した後の戦い方の意思統一を図りたい。
<3回警告>藤井貴之・ンドカ ポニフェイス(日体大)
<前期の対戦>日体大1-0東学大

日体大	東学大
2. 高野	2. 吉田
18. 川戸	29. 南
13. 増谷	4. 脇本
24. 大石	7. 平田
1. 伊藤	23. 小泉
17. 高井	12. 赤堀
25. 輪笠	8. 菅
29. ンドカ	11. 五十嵐
11. 小山	3. 安藤
26. 福田	18. 久保
	16. 富澤

関東学院大学 vs 平成国際大学

9月21日(日)
13:50K.O.
日体大G

首位の関学大と、最下位の平国大との対戦。前期の対戦は5-0と関学大が大勝しているが、後期の平国大は前期の反省から、大崩れする前に踏ん張れる気質が戻ってきた。連勝で波に乗る首位チームに、どれだけ食らいついていけるか注目だ。

関学大は前節、東洋大に2-0と快勝。強風の中でお互い様子を伺う立ち上がりだったが、GKから相手のクリアミス突き先制点を奪うと、波に乗り全般的に押し気味にゲームを進めた。守備面では相手のエースをしっかりマーク、後半はシュートを1本しか打たせない堅実な試合運びを見せた。負傷で主将のMF土館賢人(4年)を欠く中で大きな連勝であると同時に、MF三橋秀平(2年)のアシストからFW井上翔太郎(2年)が得点し後期初先発の2人が活躍するなど層も厚くなっている。石村大監督は「相手はパスコースの消し方や寄せ方がうまく、ボールを意図的に動かさなかった」と指摘しつつ、「勝ちにこだわった姿勢は評価したい」と話した。連勝を続け、首位の座を固めることができるか。

対する平国大は前節、拓大に0-2で敗れ、後期開幕から連勝を飾ることはできなかった。DF小松崎雄太(2年)の出場停止を受け、通常とやや異なる布陣で臨んだ

こともあってか前半はペースをつかめず、34分にセットプレーから失点。後半はシュートまで持ち込めるシーンが増えたが、「戦術的にやられたというより、ディテールの部分で試合が決まってしまった」と西川誠太監督が話したように、セットプレー崩れから追加点を許した。2失点とはいっても崩された訳ではない。首位チームに対し、積極的に挑んで前期の借りを返したい。
<3回警告>尾林一樹(平国大)
<前期の対戦>関学大5-0平国大

関学大	平国大
6. 福澤	3. 竹内
8. 普光院	15. 須貝
3. 原島	5. 小松崎
18. 萱沼	7. 尾林
7. 太田	9. 星子
23. 長谷川	22. 横瀬
1. 井田	21. 馬屋原
19. 山口	10. 堀越
22. 井上	6. 鎌田
14. 三橋	20. 村川
16. 木村	2. 増田

* 予想布陣は直近の試合を参考に作成しています*

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
 Division2 2014-NO.14
 編集：五味亜矢子 発行：(一財)関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ



関学大・法大・日大が連勝!

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦・2部リーグは後期、2試合を終えて関学大、法大、日大が連勝を飾った。前期を首位で折り返した神大はまだ勝星がなく、2位以下の昇格圏争いが混沌としてきた。まず、今季初の単独首位に立った関学大は東洋大に2-0で勝利。神大は東農大と1-1の引き分けで首位と勝点差が5と開いた。その神大には、青学大を3-1で破った法大と、平国大に2-0と快勝した拓大が勝点1差と肉薄。産能大に2-1で後期初勝利を挙げた日体大が5位に浮上した。また、東学大を3-1で破った日大も順位を上げ、上位グループが目前となった。

得点ランキング		アシストラランキング	
8: 星子 直哉 (平国大)	7: 富樫 敬真 (関学大)	7: 大森 勇希 (拓大)	5: 萱沼 優聖 (関学大)
7: 遊馬 将也 (東洋大)	6: 中野 春樹 (日大)	伊東 純也 (神大)	仙頭 啓矢 (東洋大)
6: 成瀬 琢斗 (日大)		小林 玲櫻 (日大)	小川 次郎 (青学大)
		恵 龍太郎 (青学大)	4: 上長 次郎 (産能大)

後期がスタートしたばかりだが、昇格・残留争いは今季も激しくなりそうな様相だ。一方で、関学大が連勝を続けて首位の座を固めるのか、注目したい。

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第13節終了時。上段が前期の対戦結果)

順位	2部	関学大	神大	法大	拓大	日体大	東洋大	日大	青学大	東農大	東学大	産能大	平国大	勝数	負数	点数	得失	得失	勝点
1	関学大	3 0 2 11/15	2 0 1 11/9	2 0 0 10/26	2 2 2 10/18	1 0 2 2 0 0 10/4	4 0 2 10/11	1 0 4 10/11	2 0 1 10/11	3 0 0 9/27	3 2 3 1 0 0 9/21	5 0 0 9/21	9	2	2	31	17	14	29
2	神大	2 0 3 日体大G	3 0 1 11/2	4 0 0 11/9	0 0 0 10/26	0 0 1 10/5	1 0 0 9/28	2 2 2 10/18	3 0 0 1 1 1 10/11	3 0 1 9/21	4 0 0 5 0 3 1 0 2	7	3	3	29	14	15	24	
3	法大	1 0 2 横須賀	1 0 3 法大G	3 0 0 10/19	0 0 0 11/15	2 0 0 9/20	4 2 4 10/25	2 2 2 3 0 1 10/4	1 0 0 10/4	2 0 0 3 0 1 9/28	2 2 2 0 0 0 10/11	6	2	5	24	15	9	23	
4	拓大	0 0 2 古河	0 0 4 横須賀	0 0 3 味スタ西	2 0 0 9/27	2 0 0 11/2	2 0 0 9/20	3 2 3 11/15	1 0 0 1 1 1 10/4	0 0 3 10/11	1 0 0 5 0 0 2 0 0	7	4	2	19	16	3	23	
5	日体大	2 2 2 江戸陸	0 0 0 保土ヶ谷	0 0 0 日体大G	0 0 2 日体大G	2 0 1 1 0 3 11/8	0 0 0 10/11	0 0 2 11/1	1 1 1 9/21	1 0 0 2 0 1 10/4	4 0 1 2 0 1 10/4	5	3	5	15	14	1	20	
6	東洋大	2 0 1 0 0 2	1 0 0 青学大G	0 0 2 青学大G	0 0 2 法大G	1 0 2 3 0 1	0 0 1 10/11	1 1 1 11/9	1 0 0 9/27	0 0 1 11/15	4 0 0 10/18	3 0 2 10/25	6	6	1	16	15	1	19
7	日大	2 0 4 日体大G	0 0 1 法大G	4 2 4 平国大G	0 0 2 千葉東総	0 0 0 江戸陸	1 0 0 東洋大G	1 0 2 3 0 1 11/15	1 1 1 2 0 0 3 0 1	1 1 1 2 0 0 3 0 0	0 0 2 10/18	5	5	3	20	18	2	18	
8	青学大	4 0 1 産能大G	2 2 2 青学大G	2 2 2 1 0 3 産能大G	3 2 3 産能大G	2 0 0 日体大G	1 1 1 夢の島	2 0 1 1 0 3	3 0 0 9/20	0 0 2 10/25	0 0 1 10/5	1 1 1 9/27	4	4	5	22	20	2	17
9	東農大	1 0 2 産能大G	0 0 3 1 1 1	0 0 1 法大G	0 0 1 1 1 1	1 1 1 日体大G	0 0 1 東洋大G	1 1 1 東学大G	0 0 3 青学大G	1 0 0 10/18	5 0 0 10/25	1 0 0 11/9	3	6	4	12	15	-3	13
10	東学大	0 0 3 東洋大G	1 0 3 日体大G	0 0 2 1 0 3 法大G	3 0 0 法大G	0 0 1 日体大G	1 0 0 東学大G	0 0 2 1 0 3	2 0 0 早大G	0 0 1 千葉東総	1 1 1 11/8	3 0 2 11/1	4	8	1	13	21	-8	13
11	産能大	3 2 3 0 0 1	0 0 4 BMWス	2 2 2 法大G	0 0 1 産能大G	1 0 4 1 0 2	0 0 4 青学大G	0 0 3 産能大G	1 0 0 青学大G	0 0 5 東国大G	1 1 1 たつこの	6 0 4 11/15	2	8	3	15	34	-19	9
12	平国大	0 0 5 日体大G	3 0 5 2 0 1	0 0 0 東洋大G	0 0 5 0 0 2	1 0 2 日体大G	2 0 3 平国大G	2 0 0 川口	1 1 1 日体大G	0 0 1 たつこの	2 0 3 日体大G	4 0 6 産能大G	2	9	2	17	34	-17	8

体育会学生のための

リクナビ就職エージェント

自分を超えて、進もう。
 部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」
 リクナビ 体育会



RECRUIT

青山学院大学 vs 東京農業大学

9月20日(土)
11:30K.O.
青学大G

後期開幕から2連敗を喫した青学大と、引き分けで後期の勝点を挙げた東農大との対戦。8位に後退した青学大と、9位に浮上した東農大との勝点差は4。後期初勝利を目指す両チームの対戦はいかに。

青学大は前節、昇格争いへの参戦を賭けて大事なゲームでもあった3位の法大との勝点3差の戦いに敗れ、昇格圏から大きく水をあけられてしまった。前半は、攻め込まれながらも粘り強く守備をして無失点に抑え、53分ようやく相手DFの裏を取って先制点を奪うことに成功したが、60分、62分と連続失点を喫して逆転を許し、試合終了間際にもPKを与えて失点した。法大の守備に隙がなかったこともあるが、厳しいプレッシャーを受けてパスの確実性を欠き、作り出せたチャンスは少なかった。上位から離され、また後期初戦に続き逆転負けを喫したことで、宮崎純一監督は「サイドを使われ守備が持ちこたえられなくなっている。もう少し守備を意識させなければいけない」と話した。現実的に勝点を考えた戦い方に転換するのか、今後を占う試合となる。

一方の東農大は前節、神大と1-1で引き分けた。後期初戦を敗れていたこと、また神大には連敗が続いていたことから、東農大にとっては光明が差した結果だった

ようだ。特に、試合開始直後から怒涛の攻撃を受け、5分で失点、前半だけで12本のシュートを許しながらも、徐々に相手のスピードに慣れて焦らず対応し20分に逆襲から得点。「前半で追いつけたのが大きい。神大から勝点1でも取れたのは次につながる」(秋吉保浩監督)。前線にボールを収め、チャンスをつくる東農大らしい攻撃の形も戻ってきた。今節は勝利をつかめるか。

<3回警告>小田原貴・金裕志(東農大)

<前期の対戦>青学大3-0東農大

青学大	東農大
16. 諸井	22. 倉林
7. 荒木	17. 徳田
3. 御牧	20. 加藤
18. 山田	10. 浜田
1. 高橋	9. 相川
10. 関谷	21. 松尾
17. 角宮	23. 山本
8. 伊藤	25. 金
13. 澤井	5. 櫻岡
11. 恵	14. 石川
2. 堤	3. 加藤

拓殖大学 vs 日本大学

9月20日(土)
11:30K.O.
千葉東総

後期に入り、まだ敗戦のないチーム同士の対戦。1勝1分の拓大は3位と並び昇格圏まで勝点1差、2連勝の日大も7位に浮上し、昇格争いへの参戦も見えてきた。好調なチーム同士の対戦は、どちらが先手を取るか。

拓大は前節、平国大に2-0で勝利した。後期初戦は引き分けに終わっていただけに、上位争いに食らいついていけるか重要なゲームであったが、下位チームからしっかり勝利を収める安定感が出てきた。特に、相手の逆襲を受け始めた後半も落ち着いて対応して得点を許さず、確実に追加点を奪ったところは、試合運びの面で成長を感じさせた。玉井朗監督も「良い距離感を持ちながら、動いて確実にパスをつないでゴールに向かうという形が、徐々にできてきた」と、攻撃面に手応えを感じているようだ。後半はシュート2本と、フィニッシュの形はやや少ない印象は拭えないが、前期終盤から攻守のバランスが良くなり、ズルズルと失点を重ねることは少なくなっている。上位争いについていきたい。

対する日大は前節、東学大に3-1で勝利した。2試合連続で先制点を許しての逆転勝利ではあるが、追い付き、勝ち越し、さらにダメ押しと3得点を奪っており、前期終盤からの攻撃面の好調さは確実に自分たちの力に

なっているようだ。東学大に対しては、前半は従来と布陣を変えて臨んだことで後手を踏んだが、GK谷俊勲(3年)を中心に粘り強く対応。後半は従来の形に戻し、FKから失点はしたが攻撃では3得点。中盤と前線とのコンビネーションが良く、前線の3人は個人成績でも上位に顔を出している。「体格負けせず走り勝てた。それを忘れずチャレンジしていきたい」(川津博一監督)。

<3回警告>三浦勇人・多田和明(拓大)

<前期の対戦>拓大2-0日大

拓大	日大
13. 新山	29. 高田
7. 大森	7. 廣田
6. 紙谷	3. 奥村
5. 谷之口	19. 高山
1. 佐川	13. 中野
19. 森川	9. 宇都宮
18. 河野	10. 小林
20. 川崎	2. 長谷川
3. 三浦	14. 成瀬
4. 小針	27. 川島
16. 高橋	1. 谷

法政大学 vs 東洋大学

9月20日(土)
13:50K.O.
青学大G

後期連勝スタートで総理大臣杯準優勝による自信と成長が見られる法大と、1勝1敗の東洋大との対戦。東洋大は6位に後退したが、それでも法大との勝点差は4、昇格圏は見えている状況にある。勢いに乗る法大の攻撃を抑え、昇格争いに肉薄することはできるか。

法大は前節、青学大に3-1で快勝し、昇格圏との勝点差を1に縮めた。後期初戦に続いて先制点を奪われる展開となったものの、落ち着いた試合運びで逆転、さらに試合終了間際にはダメ押し点も見舞った。「前半、攻撃でもうひと工夫できていればよかったが、(先制されても)3点取れる力についてはきたし、運動量が落ちなくなった」(長山一也監督)。全員がよく動き、守備時のカバーも良く、ピッチ全体に穴が少なくなってきた。昨季までとは明らかに変わったと印象づけた試合であり、本格的な昇格争いに向けて期待がふくらむが、東洋大のような堅実なチームにしっかり勝てるかどうか。

その東洋大は前節、良い形で後期初戦をモノにして首位の関学大に挑んだが、強風の中でやや消極的な試合運びに甘んじ、0-2で敗れた。前半にCKから先制点を許し、追い付かなければいけない中で後半はシュート1本に終わるなど、「要所要所で狙えるスペースがあって

も、それを見逃しているケースが多々あった。チームとしてまだ幼い」と、古川毅監督も浮かない表情であった。後期初戦で3得点したFW遊馬将也(3年)が抑えられたことも敗因の一つで、攻撃に関してはバリエーションを増やしたいところ。「1試合1試合決勝戦のつもりで」(古川監督)という東洋大にとって重要な試合だ。

<3回警告>永戸勝也・青島拓馬・西室隆規(法大)、

小山大貴・遊馬将也(東洋大)

<前期の対戦>法大2-0東洋大

法大	東洋大
2. 永戸	16. 石坂
14. 白石	9. 川森
22. 田代	4. 郡司
25. 西室	7. 斉藤
21. 富澤	20. 仙頭
9. 相馬	22. 伊藤
10. 高橋	18. 遊馬
29. 黒柳	25. 徳市
26. 伊藤	12. 瀧澤
8. 三田	10. 平石
6. 星	2. 池田

神奈川大学 vs 産業能率大学

9月21日(日)
11:30K.O.
BMWス

こちらは、後期、勝星のないチーム同士の対戦。神大は2試合で勝点1と足踏みが続いており、産能大も2連敗で浮上のきっかけがつかめない。前期は神大が4-0で勝っているが、アミノバイタル杯では産能大が5-0と大勝しているこのカード。神大が勝利した天皇杯予選を含む、今季4度目となる注目の神奈川県勢対決だ。

2位に後退した神大は前節、東農大と対戦し1-1で引き分けた。後期初戦で敗れてしまったことから、立ち上がりは積極的に攻め込みパワーのある攻撃を見せて5分で先制点を奪った。しかし、その後も両サイドを使ったスピード感ある攻撃を仕掛け、前半だけでシュート12本を浴びせながらも追加点を奪えず、逆に20分にはカウンターから同点弾を許した。後半はカウンターを恐れてか、攻撃も真正直になって攻め切れなかった感がある。「上位を経験していない緊張があるのかもしれない。挑戦者の気持ちを忘れず戦いたい」(松永道敬総監督)。徐々にケガ人も戻っており、今は我慢の時だ。

対する産能大も我慢の試合が続いている。前節は日体大に1-2で敗れて後期開幕2連敗。試合開始2分で先制点を許しながら、前半終了間際に同点に追い付き拮抗した試合となったが、後半はシュートを1本しか打て

ず、PKから勝ち越し点を奪われ敗れた。運動量を武器に、積極的な寄せからボールを奪うところまではできているが、「ゴールに向かう人数が足りないからゴールができない。前に行こうとする気持ちはあるが、運動していない」(加藤望監督)。失点はFKとPKだった。攻撃時のチャンスを見極め、いかに相手ゴールに迫れるか。

<3回警告>杉山祐亮・長野祐太(神大)、楠元秀真・須永亮(産能大)

<前期の対戦>神大4-0産能大

神大	産能大
3. 高木	15. 杉崎
11. 星	30. 葛西
4. 藤原	19. 石渡
16. 武田	8. 浜下
1. 阿部	10. 見留
14. 芦野	26. 桜井
10. 伊東	1. 森谷
8. 盛	32. 木下
5. 杉山	4. 楠元
22. 伏木	17. 岡村
7. 長野	6. 遠藤